

## イネ科通信 43

### ギョウギシバ



**ギョウギシバの名**：茎に対して左右交互に行儀よく葉が並ぶことから、行儀芝となったのではないかとされています。また、弘法太子に名をとったコウボウムギに似ることから、別の高僧である行基の名を付けたという説もあります（インターネットより）。**花期**は5～7月。穂状花序は直立した稈の先に3～7個（上の2枚の写真参照）放射状につき、それぞれの花軸は3～5cm、下側には殆ど無柄の小穂がほぼ2列に隙間なく並びます（上の写真2枚）。小穂は長さ2～3mmで1小花からなります。**多年草**であることは左下の写真でご確認ください。ギョウギシバは踏みつけにも強く、**芝生として栽培**されることもあります。

ギョウギシバの花粉は**季節性鼻炎（花粉症）のアレルゲン（抗原）**のひとつと考えられています。

下中央の写真にはギョウギシバの稈に小穂が並んだものです。下右のものはギョウギシバの稈から取り出した小花です。小花は護穎と内穎に包まれています。その下に2枚の包穎があります。

（注） 右下の2枚はHP「三河の野草」より引用させていただきました。

